

心理療法

～2017

科目コード

FF3520



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	2年以上	秋田 恭子

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※「心理学的支援法Ⅰ」「心理学的支援法Ⅱ」の2科目の内容を学ぶため、下記記載の「■教科書」「■卒業までに身につけてほしい力」との関連、「■参考図書」「■講義内容」「レポート学習」「科目修了試験」以外の項目は、p. 223「心理学的支援法Ⅰ」（科目コード：FF3554、2単位、履修方法：RorSR）とp. 228「心理学的支援法Ⅱ」（科目コード：FF3557、2単位、履修方法：RorSR）の2科目をあわせて参照してください。

※「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」のスクーリングを16コマ受講する必要があります。スクーリング試験も2回行います。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です（履修登録は2021年11月20日まで可能）。

※スクーリングの一部を別教員（重宗祥子先生）が担当します。

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■教科書

末武康弘『心理学的支援法—カウンセリングと心理療法の基礎』誠信書房、2018年
(最新の教科書変更時期) 2019年4月
(スクーリング時の教科書)

旧教科書を所持している場合でも受講に支障がないようレジュメを配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」「根拠に基づく情報発信力」「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

「心理的支援法Ⅰ」 p. 224、「心理的支援法Ⅱ」 p. 229～231参照。

スクーリング

■スクーリング受講条件

「心理療法」のスクーリングは、受講申込締切日までに、「心理学概論」「人格心理学」「臨床心理学」「心理アセスメント」「カウンセリングⅠ・Ⅱ」「カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱ」のなかから4科目程度以上学習を終えていること（学習を終えているとは、たとえばSR履修ならば、スクーリング受講済＋レポート提出済、R履修ならばレポート提出済＋科目修了試験受験済にしておくことが望ましい）。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	心理学的支援の概要①	歴史と現代の心理学的支援
2	心理学的支援の概要②	領域と方法、支援の基礎となるもの
3	精神分析／精神力動論	無意識の発見とこころのシステム
4	精神分析の概要	精神分析の基本概念と実践
5	精神力動的サイコセラピー	精神力動的理解を基本とした心理面接
6	現代社会と精神力動的心理支援①	精神力動的人間理解－アセスメント・フォーミュレーション
7	現代社会と精神力動的心理支援②	様々な領域での支援にどのように活かすか
8	日常生活と精神力動的人間理解	支援を行う自分自身について、日常生活の中で理解を深める
9	スクーリング試験	
10	心理療法の概要と実際①	クライアント中心療法・フォーカシング・エンカウンター、ビデオ学習
11	心理療法の概要と実際②	カール・ロジャースの面接、ビデオ学習
12	心理療法の概要と実際③	認知行動療法、ビデオ学習
13	心理療法の概要と実際④	心理学的支援法のプロセスと実際
14	心理療法の概要と実際⑤	箱庭療法・内観療法・森田療法、ビデオ学習
15	心理療法の概要と実際⑥	プレイセラピー、ビデオ学習、ブリーフセラピー
16	心理療法の概要と実際⑦	アウトリーチ・危機介入と心のケア
17	心理療法の概要と実際⑧	心理教育およびレポートについて
18	スクーリング試験	

レポート学習

■在宅学習30のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理学的支援法への誘い（第1章）	心理支援や心理学的支援法が求められるようになった背景と、心理支援・心理学的支援法とは何かを学ぶ。	心理学的支援法の概要を理解する。
2	心理学的支援法の特質（第2章2-1）	日常会話や相談と異なる心理学的支援法の特質を学ぶ。 心理学的支援法と他の専門的な対人的支援法との異同について学ぶ。	心理学的支援法の特質を理解する。
3	心理学的支援法の効果と限界（第2章2-2・3）	心理学的支援法にどのような効果があり、どのような限界があるのかを学ぶ。	心理学的支援法の効果と限界を理解する。
4	心理学的支援法の対象①（第3章3-1～3-2(2)）	心理学的支援法が対象とする心理的問題の背景や成因を学ぶ。 幼児期・児童期・思春期・青年期にみられる特徴的な心理的問題について学ぶ。	心理学的支援法が対象とする心理的問題についての概要を知り、幼児期から青年期に特徴的な心理的問題について理解する。
5	心理学的支援法の対象②（第3章3-2(3)～3-3）	成人期・高齢期にみられる特徴的な心理的問題とその他の心理的問題について学ぶ。	成人期と高齢期に特徴的な心理的問題とその他の心理的問題について理解する。
6	心理学的支援法の発展①（第4章4-1）	心理学的支援法としての心理療法（サイコセラピー）とカウンセリングはどのような歴史的背景から生まれ、発展してきたのかを学ぶ。	心理療法とカウンセリングの生まれた歴史的背景と発展について理解する。
7	心理学的支援法の発展②（第4章4-2）	心理療法（サイコセラピー）とカウンセリングが合流して発展していく歴史的展開について学ぶ。心理療法とカウンセリングの共通点と相違点について学ぶ。	心理療法とカウンセリングの異同を知り、両者の合流と歴史的展開について理解する。
8	心理学的支援法のさまざまな理論と方法①（第5章5-1・2）	心理学的支援法としてのカウンセリング／心理療法の海外と日本における第4章で扱った時期以降の現在までの発展について学ぶ。心理学的支援法の主要なパラダイムにはどのようなものがあるかを概観する。	海外・日本でのカウンセリング／心理療法の現在までの発展を理解し、心理学的支援法の4つの主要な立場を知る。
9	心理学的支援法のさまざまな理論と方法②（第5章5-3）	心理学的支援法の4つの主要なパラダイム、それぞれの特徴と、それぞれに含まれる理論・方法・提唱者を学ぶ。	心理学的支援法の4つの主要なパラダイムの特徴と、それぞれに含まれる理論・方法・提唱者を知る。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	心理学的支援法の主要理論① (第10章10-1)	4つの主要な理論の一つ「その他の理論・方法」のうち、家族療法とブリーフセラピーについて学ぶ。(3つの主要な理論は心理学的支援法Ⅱの学習内容となっている。テキスト第6～9章)	家族療法とブリーフセラピーについて理解する。
11	心理学的支援法の主要理論② (第10章10-2・3)	4つの主要な理論の一つ「その他の理論・方法」のうち、さまざまなクリエイティブセラピー(表現・芸術療法)と現代的で統合的な諸理論について学ぶ。	さまざまな表現・芸術療法と、現代的・統合的な理論である交流分析、対人関係療法、動機づけ面接などについて理解する。
12	心理学的支援法の主要理論③ (第10章10-4・5)	4つの主要な理論の一つ「その他の理論・方法」のうち、さまざまなエスノセラピー(民族文化療法)と、折衷的・統合的・多元的アプローチについて学ぶ。	日本独自の心理療法である森田療法・内観療法について理解する。また特定の理論・方法に拘らない実践方法について理解する。
13	心理学的支援法のプロセスと実際①(第11章11-1(1)A、(2)、11-2(1))	心理学的支援法のプロセスについて総合的な観点から学ぶ。(主要な3つの理論的立場(パーソンセンタードセラピー、精神力動的セラピー、認知行動療法)によるプロセスの捉え方は心理学的支援法Ⅱで扱う。第11章 11-1(1)B,C,D) 心理支援の初期の段階における実際と留意点について学ぶ。	心理学的支援法の全体的なプロセスと、初期段階における実際の作業及び留意点について理解する。
14	心理学的支援法の実際(第11章11-2)	心理支援の探求・展開・終結の三段階における実際と留意点について学ぶ。	心理支援の初期段階以降の終結までの三段階での実際の作業及び留意点について理解する。
15	心理学的支援法をさらに学ぶために(第12章)	専門的な理論と方法を修得するために、今後どのように心理学的支援法の知識的学習を深め、体験学習とトレーニングを積み重ねていけばよいかについて学ぶ。	心理学的支援法の修得のための、今後の具体的な学び方を理解する。
16	心理学的支援法の主要理論(その1)第6章1	心理学的支援法の基礎としてのパーソンセンタードセラピーセラピーはどのようなものかを学ぶ。パーソンセンタードセラピーの歴史的発展についてその概要を学ぶ。	心理療法の歴史の中でパーソンセンタードセラピーの位置づけについて理解する。
17	心理学的支援法の主要理論(その1)第6章2(1)(2)	パーソンセンタードセラピーの主要な理論を学ぶ①。	パーソンセンタードセラピーの自己理論と支援理論について理解する。
18	心理学的支援法の主要理論(その1)第6章2(3)	パーソンセンタードセラピーの主要な理論を学ぶ②。	パーソンセンタードセラピーのプロセスについて理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
19	心理学的支援法の主要理論（その1）第6章3	パーソンセンタードセラピーの方法を学ぶ。	非支持的応答や一致とプレゼンスについて理解する。
20	心理学的支援法の主要理論（その2）第7章1	パーソンセンタードセラピーの発展的方法を学ぶ。パーソンセンタードアプローチ（PCA）とはどのようなものを学ぶ。	エンカウンターグループおよびパーソンセンタードアプローチ（PCA）とはどのようなものかについて理解する。
21	心理学的支援法の主要理論（その2）第7章2	ロジャース以後のパーソンセンタードの主要な発展を学ぶ①。	体験過程の理論、フォーカシングについて理解する。
22	心理学的支援法の主要理論（その2）第7章2(4)	ロジャース以後のパーソンセンタードの主要な発展を学ぶ②。	体験的セラピー、エモーションフォーカストセラピー、プリセラピーについて理解する。
23	心理学的支援法の主要理論（その2）3	パーソンセンタードセラピー以外の主要なヒューマニスティックセラピーを学ぶ。	ゲシュタルトセラピー、現存在分析、ロゴセラピーについて理解する。
24	心理学的支援法の主要理論（その3）第8章1(1)(2)	精神分析およびそこから発展してきた精神力動的な理論とはどのようなものを学ぶ。	精神分析および精神力動的なセラピーとは何か、精神分析の基本的な理論（局所論・力動論・エネルギー経済論）を理解する。
25	心理学的支援法の主要理論（その3）第8章1(1)(2)	精神分析およびそこから発展してきた精神力動的な理論とはどのようなものを学ぶ。	精神分析の基本的な理論（発達論・構造論・防衛機制論）を理解する。
26	心理学的支援法の主要理論（その3）第8章1(3)	精神分析から発展した精神力動的な理論を学ぶ①。	自我心理学、対象関係論を理解する。
27	心理学的支援法の主要理論（その3）第8章1(4)	精神分析から発展した精神力動的な理論を学ぶ②。	ユングの分析心理学、アドラーの個人心理学、新フロイト派について理解する。
28	心理学的支援法の主要理論（その4）第9章1	認知行動療法とはどのようなものであり、どのように発展してきたのかを学ぶ。	認知行動療法とは何か、その歴史を理解する。
29	心理学的支援法の主要理論（その4）第9章2	認知行動療法の主要な理論を学ぶ。	行動療法の理論、認知的アプローチの理論を理解する。
30	心理学的支援法の主要理論（その4）第9章3	認知行動療法の主要な方法を学ぶ。	レスポンド条件づけに基づく方法、オペラント条件づけに基づく方法、応用的な諸方法を理解する。

■レポート課題

1 単位め 『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。

2 単位め	<p>第6章より第9章までフロイトによる精神分析と認知行動療法とパーソンセンタードセラピーの中から1つ選んでください。あなたが選んだ療法について明記した上で以下のことを必ず盛り込んでまとめてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. その心理療法が確立された背景 2. その心理療法を創始した人 3. その心理療法の心や症状の捉え方などその心理療法の特徴 4. その心理療法の方法、特にカウンセラー（あるいはセラピスト）のあり方 5. 現在、その心理療法はどのように発展し、どのような症状や場面などで主につかわれているのか 6. あなたのその心理療法についての見解
3 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
4 単位め	<p>第10章を中心に第2章・第3章も参照しながら取り組んでください——次の文章は、ある事例の要約です。この文章を読み、下記の課題をレポートしなさい。 （※レポート用紙の課題記載欄は、下2行の課題の記載のみでよい。）</p> <p>ある両親が、中2の子どもの不登校のことで来談された。家族は、祖父母、両親、長女、長男、次女、次男（本人）である。父親は、一流企業の役員をしているが、祖父に頭が上がらず、家計は祖父母が管理している。そのためか、嫁姑の関係は悪い。本人は、末っ子のこともあり、家族から溺愛されて育ってきた。不登校になるまでひとりで留守番することができなかった。また、2階の自分の部屋にひとりで行けなかったので、家族の誰かがその都度ついて行った。祖父母も両親も社会的地位や名誉には敏感で、上の兄弟は一流の学校を卒業し、一流の企業に就職をしている。本人は、小学校の時も不登校気味であったが、家庭教師をつけたこともあり、一流の中学校に入学したが、不登校に陥った。現在の本人は、テレビゲームを中心に昼夜逆転した生活をしており、家族とのかかわりを回避している。時々気に入らないことがあると両親に暴力を振るい始めているが、風呂にも入らず、無気力な生活を送っている。祖父母は、こうなったのも両親の育て方が悪いからだと言っているが、夫婦でそのことについての話し合いはない。他の兄弟も本人のことに触れないようにしている。祖父母と両親の共通点は、本人が今の中学校を卒業して、有名高校に入学することを願っていることだ。</p> <p>課題 発達のカウンセリングの視点も考慮に入れて、どのように家族療法をおこなっていったらよいか、論述しなさい。</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

（2018年度以前履修登録者）2019年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題での提出は2020年9月で締め切りました。

■アドバイス

ここで使用している教科書は、「心理療法」を初めて学ぶ人を前提に選択しました。本書では、代表的な心理療法を取り扱っていますが、各心理療法を創始した創始者の生育歴や時代背景をとりあげ、読む側にとっては、それぞれの心理療法の形成過程と特徴について理解を深めることを容易にしています。教科書は、レポートを書く前提としての基礎的知識を習得する本として位置づけています。入門的で平易な文章ではありますが、それぞれの文章には深い意味が込められています。この点を学んでもらいたくレポート課題を課しています。したがって、教科書のみでは、各レポート課題をまとめていく点が多々あります。教科書の基礎的知識をもとに各レポート課題の中から興味ある課題を選択し、下記にとりあげた参考書等を読み砕き、レポートを作成してください。また、心理療法に興味をもったなら各参考書に載っている本・文献や各自が見つけた本等を読み進めてください。

引用・参考文献が、テキストだけのものは、必ず再提出にしています。テキスト以外に利用した本を最低1冊以上はあげてください。

なお、レポートは、教科書、参考書、インターネット情報等の「抜粋」や「切り張り」や「内容の要約」、「あらすじの説明」ではなく、教科書と参考書等を熟読し、それを学習者自身の創意にもとづいて理論的に組み立て、作成してください。また、心理療法という科目の性質上、個人的体験談等を書きたくありませんが、提出されたレポートは成績をつけるものですので、個人的経験談等は評価の対象にはなりません。あくまでも心理療法という学問についてレポートをしてください。

1・3単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め アドバイス

フロイトによる精神分析、パーソンセナードセラピー、認知行動療法は、代表的な心理療法です。

現在たくさんある心理療法はこの3つの心理療法から発展していきましたので、これらの心理療法を深く知ることは心理療法を理解する上で大切です（ただし認知行動療法はほかの2つのものとは歴史が違いますので、認知行動療法を選んだ場合にはそのことにも触れてください）。1から6の項目を必ずいれて論述してください。項目ごとの記述ではなく、6項目に必ず触れてください。1つでも欠けた場合には再提出とします。

4単位め アドバイス

ひとつの事例を今まで学習してきた心理療法の知識をもとに考察してもらう課題です。

「発達的カウンセリング」についてですが、この事例は、中学2年の男子です。中学2年という年代は一般的には、どんな年代でしょうか？ 心の状態、親との問題、人との関係など、子どもから大人になる時期です。このことは、すでに様々な研究者が指摘しているので、それを参考にして、具体的な研究者の理論をあげながら（理論をくわしく紹介する必要はない）、まずはその年代の発達の特徴を捉えてください。その上で、その特徴と比較して、この事例の中学生はどうでしょうか？ 例えば、「ひとりで留守番できない」「ひとりでは自分の部屋に行けない」など他にもこの中学生の状況について書かれた部分はありますが、そのことと一般的中学生の状態と比較してこの事例の中学生はどんな成長を遂げており、あるいは遂げていないのでしょうか？ その視点を織り交ぜてこの事例を考察してください。これが、発達的カウンセリングの視点ということになります。

また、このような家族に心理的援助をしていく場合、ファミリー・カウンセリングの視点がカウンセラーに求められます。なお、ファミリー・カウンセリングは、その名称からただ「家族」に行うカウンセリングと理解しがちですが、今日では「家族療法」の名称が一般的です。家族療法にもいろいろな立場があります。その中で興味ある家族療法（ファミリー・カウンセリング）の視点から、この面接のあとの面接でこの家族にどのようにアプローチしていくか論述してください。なお、今回は両親が来談したが、この後の面接に関してはどの家族メンバーを面接に呼ぶかなども考察してみてください。

上記の2つの視点を織り交ぜて、この事例を考察してください。

なお、発達心理学の一般的説明と家族療法の一般的説明で事例を考察するのは、事例に則した考察というより「一般的説明」の要約に陥ります。たとえばエリクソン理論の内容を細々と要約して紹介する必要はないので、あくまでこの事例に即して考えてください。

現段階で得られている情報をもとに、①中学2年の男の子の発達心理学の視点からのアセスメント、②この家族のかかえていると思われる問題、③ ①と②をふまえた上でこの家族に適切とおもわれる家族療法の選択を行い、その家族療法の具体的な技法をあげながら、どのようなアプローチが良いかを記述する、④そのアプローチを行う上での留意点や問題点を最後にまとめる、という流れで論じてください。

科目修了試験

■評価基準

教科書を何回も読み専門用語の説明が出来るようにしてください。その際には、自分で一度は書いてみることをおすすめします。